

5-6 施設・設備等

- A 群・大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- B 群・大学院専用の施設・設備の整備状況
- B 群・学術資料の記録・保管のための配慮の適切性
- B 群・国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

本研究科は、青山キャンパスという都心の恵まれた環境に立地し、教育研究目的を実現するための講義室、演習室等は適切に配置されている（「大学基礎データ」表37）。また、図書館（本館）の所蔵件数は、図書約113万冊、定期刊行物約1万7,000種類（内、内国書1万2,000種類、外国書5,000種類）、視聴覚資料約4,600種類、電子ジャーナル約7,800種類にのぼる（「大学基礎データ」表41）。この他、語学教育の向上を目的とした視聴覚教育施設（外国語ラボラトリー）や情報教育研究施設（情報科学研究センター）等の利用が可能である。さらに2004年度経済研究調査室から発展させた**経済研究所**（学部附置研究所）では、研究調査室時代から、**他大学の紀要（300種類）や経済関係の和雑誌（80種類）・洋雑誌（160種類）を収集・所蔵**して、教員、院生、学部学生の利用を可能にしている。また、経済学部紀要である『青山経済論集』を国内351箇所、国外16箇所に送付し、学術交流に努めている。

前期課程院生室は11号館、後期課程院生室は8号館に設置されており、いずれも在籍学生数分の座席が確保されている。前期課程院生室にはパーソナルコンピュータ4台（在籍学生数16名）、ネットワークプリンター1台が設置されている。また、後期課程院生室には在籍学生数分のパーソナルコンピュータと、これと接続されたネットワークプリンターが2台設置されている。

経済研究所設置に伴い、これと隣接してミーティングルームやプレゼンテーションルームが整備され、これらの施設は研究科学生の演習及び研究発表にも使用可能となっている。こうした点でも、院生と教員の研究環境の改善が図られつつあるといえる。

上記の施設の他にも、院生と教員が授業やミーティング等で利用できる部屋、それとは別に院生同士がミーティング等に利用できる部屋も用意され、院生の研究環境は近年大きく改善されつつある。

- A 群・施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

研究科学生が利用可能な施設・設備のうち、経済研究所が受け入れている研究用図書及び資料、コピー機3台、リソグラフ2台、製本機2台の利用については3名の嘱託職員がこれらを補佐しており、院生及び教員の研究を十分に支援する体制になっている。